

One Shibata

市民の力で「しばた」を一つに

2013/7/15に駅前開発と市役所移転を知り300以上の商店、企業、市民と話し合いました。結局どの一人もこの開発には賛成はしていません。(仕掛けてある側の数人は別です) そんな声が全く市政には届いていません。新発田ガスをはじめとする大手企業がスポンサーのメディア(新発田オレンジプレス、街角コンパスなどのフリーペーパー)は市政の提灯記事ばかりです。(公的企業の新発田ガスが広告を載せるなどまるで原発を推進する東京電力の様です)「百年しばた」はこの開発に反対はしていません。もう建ててしまふことがきまった事に反対しても無意味だからです。ジャーナリズムとして言葉を発信して市民の心をつないでいきたいと思っています。私は学び、いつの日か制度としての政治の監視(新発田市民オンブズマン)を立ち上げることを夢見ています。

「One Shibata」キャンペーンは「駅前開発と市役所の移転」に対して市民が市民の立場から考えていく運動です。

重要な事は、市政を考える為に十分な情報が公開されているか、市政に参加するための機会が用意されているかということです。私には今の新発田においては双方共に十分ではないと感じています。

議員の皆様にご覧頂き、市民の立場で見た新発田を感じていただきたいと思っております。

市民と会話を行っていくと「市議会が上手く乗せられた・必要な情報を受けること無く審議を急がせられている」「市長はいい人なのだが取巻きが悪すぎる」という言葉を聞きます。

多くの市民は議員の皆さんに同情的です。市民自身が応援(自分の意見を市政に反映)できないことの歯がゆさの言葉、厳しい言葉を聞くことが有ります。

「百年しばた」は議員の皆さんに期待しています。市民に選ばれたという皆さんの重責もよく分かります。選んでくれた市民の視線で今の状況を見る事こそが皆さんのこれからの議員活動につながっていくものと信じています。

1) 市民に伝わるような広報でないこと

現在、最も大きな話題は「駅前開発」「市役所移転」の2つです。両者ともに十分な情報の公開、があったとは市民は誰も考えていません。

私が8月に回った商店、企業、市民の皆さんはほとんど知っていませんでした。「あるような話を聞いているがもう決まったのか」と言うよう方々がほとんどです。

「広報を見ない市民が悪い」のではなく、「市民に伝わるような方法で広報を行っていない」と思わざるを得ません。

この小冊子を持ってお諏訪様から始まり駅前の商店を回りました。自分たちの町内にマンションが立ち町内会にも入らないで地元の商店街で買い物もしない住人が住むと言うことを誰も知りません。

キッチンスタジオと呼ばれる施設が入りますが、小浜市の事例を検討すると大変なコストが掛かり、そのような施設が必要かという議論が必要だと思えます。市内の主要な幼稚園を回って、幼稚園児に食育が必要かということをお話ししましたが、そもそも「キッチンスタジオ」がどんなものに成るのかも知りません。

(E-1,E-2 参照)

11月2日にこの小冊子を作成してから100近くの商店、企業を回りました。

ほとんどの市民は皆頑張ってくれと応援してくれています。

これから、あらゆる場所に訪れて語り合っていきます。

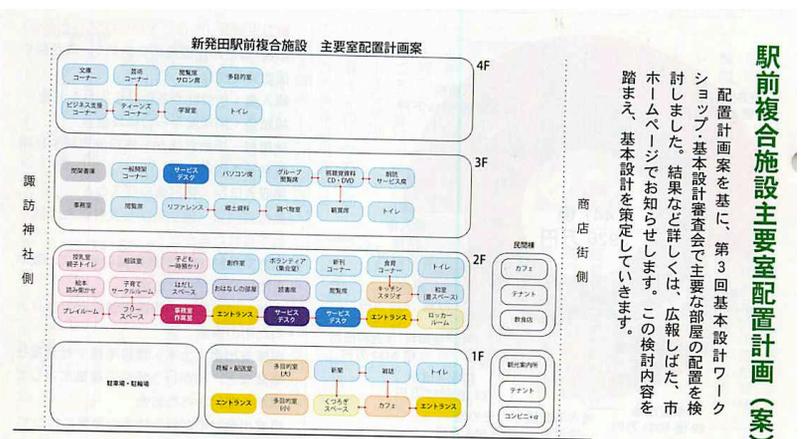
私は新発田を離れている人たちも市民と考えています。

都市にいる新発田の出身者にもネットなどを通じて伝えていきます。

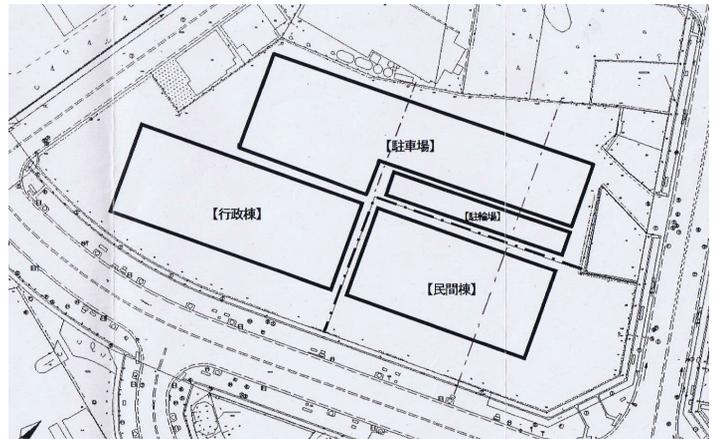
また、同じような問題を抱えている全国の「市民」との連隊を築いていきます。

広報しばた 2013/11/01には下記の図が掲載されています。この図を見ると民間棟が図書館よりもはるかに小さく、2階建てのビルのように見えます。

建築会社ビルの計画は公開されていないので分かりませんが、上階層には敬和学園の学生寮と家族向けマンションになり、(10階建てかなん階建てかは)分からないが新発田を見下ろすものになる。」と言う私の認識と異なります。また、市民に聞かれたのですが、このマンションの住人の駐車場はどこになるのでしょうか？



広報の内容からは、新発田市の計画はわからないだけでなく、誤解を与える内容である。



平成25年9月17日常務委員会資料より

(C-1,C-2 参照)

百年しばた

〒957-0053 新潟県新発田市中央町5-3-12

代表 齋藤真也 080-2049-3853

100@hept.jp http://www.hept.jp/100/

身近な友人に小冊子を配布していただける方はご連絡ください。ご質問やご意見もお気軽にお伝え下さい。カンパもお願いしています。

ゆうちょ銀行 店名:一二八(読み イチニイハチ) 店番:128

普通預金 2788715 百年しばた(ヒャクネンシバタ)

2) ジャーナリズム（権力を評価する目）としてのメディアの不在

i-2

新発田オレンジプレスと言うフリーペーパー（無料の広告紙）があります。

無料で市民に配られます。編集者の考え方で紙面は作られますのでそれは自由です。しかしながら私から見て市民が知るべきことを隠しているように思えます。発行人のA氏はワークショップで「キッチンスタジオ」の必要性を説いていますが、その運用に関しては全く触れていません。本来、施設の運用が最も重要なはずだと考えます。

アメリカに批判的に市政を報じるメディアの無い地方都市で、市長の給料が大統領よりも高い事例があります。適正な市政にジャーナリズムとしてのメディアは必要です。

「百年しばた」は、市民の側に立ったメディア、ジャーナリズムとしてのメディアを目指します。

将来的には市民オンブズマンとしての活動も視野にいられています。

3) 仕事を出すことで市民の意見を無視して批判の芽を摘む新発田市

市役所の移転の委員会でY氏（新発田市から仕事を受注している）は、第四銀行横に移転した場合の**交通混雑の問題に関して新発田はこれから都市化が進み「地下鉄」が通って自動車の必要性がなくなる**と言う趣旨の発言があったと噂に聞きます。この話をすると市民は皆呆れ返ります。市から仕事を受けていると、市の言いなりとなります。本当に賢い意見を政策に反映させることが重要です。

「百年しばた」は、市民の側に立ったメディア、ジャーナリズムとしてのメディアを目指します。

新発田の印刷会社さんに5000部の印刷を見積もろとした所「新発田市の仕事をしているのでこの様な印刷物は仕事として受けられない」と言われたことも残念な事でした。全く封建時代のようなようです。

4) 図書館と市役所移転への提案

この提案は市民の皆と話し合っただけで考えました。既に計画は確定していると議会も市長も言うでしょう。なのでこの提案は無視されても構いません。しかしながら、市民が望んでいることをはっきりと伝えておきたいと思えます。市民の意見は知恵にあふれて素晴らしいものです。そしてこのような提案に対して議会と市長がどう対応したかは今後市民に伝えていきます。

民間棟は廃止、図書館以外の施設の代わりにハローワークを！

(D-1,D-2 参照)

民間等の存在意義がはっきりしません。もう一方の民有地は購入したのですから、こちらの土地も買うべきです。駅前マンションを補助金を利用して建築会社が利益のために建てると批判されても仕方がない施策です。

民間棟税金の補助が必要になる「ミニスーパー、DVDショップ、本屋」必要ありません。市の施設である「観光案内所」は図書館棟に入るべきです。

新発田には高校を出て就職する子どもが沢山います。またリストラで職を失った市民に取っても駅前にハローワークは最適です。窓口だけでもいいのでここにあるべきです。

第四銀行横の土地には市政を考える部門を移転、3階建にする。

(A-2 参照)

ハヤカワビルの購入の疑惑、交通渋滞（地下鉄が出来ない限りですが…）建築費の増加などの問題が指摘されます。（当初の計画での建築費は重要な要素です。企業では建築費がオーバーしたら計画自身を見直すのが普通です）**3階建てにして移転部門を「議会、市長室、政策決定部門」に限定することで解消されます。**陳情を受け市政を考える場所となり新発田の明日を考えます。

手続きの窓口は現市役所の辺りの市有地を使うべきです。ネット時代ですから分散することは問題ありません。既に新発田には多くの分室があります。

5) 将来へのビジョン

「住みやすさ日本一」「水の町新発田」と言った言葉を見かけます。市民と話をしていくと、「水の町新発田」と言うのは建築会社に仕事を出すためではないかと言う声を聞きます。上下水道が完備して、水が暗渠を流れるようになった現在ではかつてのような水環境ではありません。小さいころ新発田川で水浴びをしたり、野菜を洗ったりしていたのは単なるノスタルジーです。これらの言葉に空虚さを感じます。

「平和都市新発田」 私達のおじいさんおばあさん達は十六連隊として多くなりました。世の中には被害者でなければ語れない言葉があります。私は子どもたちに戦争で死んで欲しくありません。
(D-1,D-2 参照)

「自給自足、地産地食宣言都市新発田」

TPPは私達の健康を奪いつつ有ります。そんな中で農業と市民を結ぶ試みは重要です。これを打ち出せば全世界で共感を受け、多くの姉妹都市が出来ると確信しています。
(G-1,G-2 参照)

One Shibata季刊誌化のお知らせ

多くの市民の方から、これからも市政に関してのジャーナリズムとしての情報が知りたい。自分も友人に配布したい。市から仕事を貰っているんで表立って反対はできないが、あなたの勇気には感動する。いい「しばた」にしていこう、と言う言葉を頂いています。毎日街をまわりながら感動しています。そんな言葉に勇気づけられました。これからこの小冊子を季刊誌として発行を続けていきます。そして市民の心をつないでいきます。「駅前開発」「市役所移転」がこれからどのように推移していくか見つめていきます。この運動は反対運動ではないので、駅前開発、市役所移転が進んでいったところで、運動を続けます。そして、いつの日か市民の言葉が反映された市政が実現することを信じています。